

ウィズリブ馬渕 地域連携推進会議：議事録

場所：ウィズリブ馬渕共有室

時間：2025年12月22日16:00～

参加者：

ウィズリブ馬渕利用者：Mさん

利用者保護者：Hさん

グループホーム職員：鈴木寛之

社会福祉士：Nさん

～以下より敬称略～

====

●会議資料に沿って進める（別途配布）

A.ウィズリブ馬渕について

①施設案内・提供しているサービスについて

②利用者紹介

③医療体制について

B.利用者の日々の様子について

①利用者Mさんよりウィズリブでの生活についての聞き取り

②支援員より日々の対応について報告

C.非常時の対応について

D.課題、今後の展望について

①事故報告について（ウィズリブ八幡T様事例）

②今後の地域との関係について

●質疑応答については章ごとに行う。BとCに関しては話し合いの時間を設ける。

====

A.ウィズリブ馬渕について

鈴木：馬渕のサービスについてご理解いただけたでしょうか？

H：娘は好き嫌いが激しく偏食気味なのですが、食事提供でトラブルはありませんか？

鈴木：それぞれの利用者によって食べれる食べれないはあり、それについては職員全体に共有しております。なので無理やり嫌いなものを食べさせることはしていません。ただ、馬渕は他の施設よりも偏食の方が多く、好き嫌いが千差万別で職員の悩みになっているようです。なので、食べれないメニューを作る場合は一部の方は別メニューでという形も取ったりします。

M：私はかなり好き嫌いが激しいですが、職員さんが配慮してくださるので、食事に関して困っていることはほとんどありません。少し苦手意識があるものでも好きな味付けに調整してくれたり、工夫をしてくれます。

鈴木：そうですね。食事の幅が広く満足度が維持しやすい一方で、現場職員も考えながら考えながら毎日試行錯誤しております。

N：普段どのような話や悩みを職員さんと利用者さん間でお話ししておりますか？

鈴木：馬淵は障害者グループホームというよりは女性寮と言ったイメージの方がふさわしいかもしれません。皆様就労のことや自身の特性のことだけでなく、生活のことや人間関係、友人関係の悩みなど、幅広いジャンルでお話しをされております。

M：そうですね。私は普段職員さんには「自分が嫌われていないか」「自分のことをみんながどう思っているか」と言った悩み相談だけでなく、楽しかったことや一日を通して思ったことなど様々なことをみんなと話していますね。

H：体調管理についてもいつもありがとうございます。

B.利用者の日々の様子について

利用者、Mさんの話

鈴木：私たち職員による日々の支援について普段思っていることはございますか？よかった部分、不満に思っている部分なんでも良いのでお話しくださると助かります。

M：職員の皆さん優しくよく話を聞いてくれます。私は遮られたり持論を述べてくる人がとても苦手なのですが、丁寧に聞いてくれて安心します。またこのホームは障害者グループホームですが、いい意味でグループホームらしさがなく、ある程度自分の判断で動くことができ、障害者扱いのような感じではなく一般の人のような接し方でコミュニケーションを取ってくれるので、嬉しく思います。

N：困っていることはありますか？

M：仕方ないことですが、女性職員がほとんどいないことです。基本的には夜勤は男性で、相談しにくいことがもちろんあります。

鈴木：そうですね。そこは雇用の状況の関係で大変申し訳なく思っています。皆様基本的には週に1回訪問看護を入れているため、女性に相談したいことは訪問看護の方に聞いてもらっている状況です。

M：そうですね。でもやはり訪問看護の方は普段の私を常に知っているわけではないので、可能であれば女性の職員さんも入ればもっと暮らしやすいなと思っています。

鈴木：おっしゃる通りです。応募が中々ない関係で男性職員のみで回している現状です。訪看は常に支援に入っていないので、芯までは対応ができていないと思います。早急に対策ができればと考えております。

N：雇用の話になるので難しいですよ。岳美も先週お伺いしましたが、男性職員のみでしたね。

職員鈴木より日々の業務について

鈴木：馬淵は精神の方が中心となっており、岳美以上に状況が変化しやすいです。

全員管理者携帯とつながっており、現場職員だけでなく、管理者とやり取りができる状態になっております。

話しにくい相談や、ふと思ったことなどがリアルタイムで共有されることが多く、問題解決に素早く動けるように注意しております。

また、職員も利用者それぞれの細かい変化や、気になったことなど細やかに職員間のチャットグループで共有しあい、把握を取っています。また、友人感覚的な距離の近さにならないように送る内容は精査しております。

M：何かあったら現場の職員さんだけでなく、鈴木さんにすぐにメッセージを送っています。日記のようなものもあれば、悩みや相談したいことまで多岐に渡ります。

N：利用者さんも状況に応じて相談先を使い分けている感じですね。重要な話はメッセージの方が記録に残しやすく、トラブルにもなりにくいので使い分けが大事ですね。

C.非常時の対応について

鈴木より自然災害、感染症対策、火災対策について説明

N：今後より対策が求められている災害対策に関して、現在検討しているものがありますか？

鈴木：はい。非常用のバッテリーの導入を検討しています。現在の備品では賄いきれない面が多く、来年度より試験的に馬淵に導入する予定です。馬淵は携帯の利用者がほとんどでニーズも高いので。

N：利用者は防災用品の場所については把握されていますか？

鈴木：避難訓練の際に確認をしております。その際に消化器などの火災設備の場所も確認しております。

H：感染症の対策はわかりましたが、保護者の方に連絡するしないの基準はありますか？

鈴木：はい。コロナは5類感染症に下がった関係で連絡までは想定しておりませんが、重い食中毒など、健康被害に大きく関わる場合は家族に連絡をします。

H：わかりました。もし重い事態になった場合は実家でも受け入れ可能なので言ってください。

鈴木：ありがとうございます。ですが、訪看・訪問診療などフルに使って、なるべくこちらで完結できるように努めてまいりますのでよろしくお願いします。

N：時折ホームでの火災が問題になりますが、今回挙げた対策以外で火災対策として検討しているものはございますか？

鈴木：今の所考えてはいませんが、行政などの最新情報をこまめに集めて、適宜対応ができればと思います。馬淵では皆さん電子機器を多用されているので、居室コンセントの状態やモバイルバッテリーなどはこまめに確認しています。

D.課題、今後の展望について

ヒヤリハットの件

鈴木：事例報告としては以上になります。馬淵でも騒音トラブルなどが十分考えられるので気をつけて参ります。

M：そうですね。私もつい大きな声が出てしまい、皆さんおしゃべりなので、トラブルがいつ起こるか心配です。

鈴木：今の所クレームはでておりません。近所の方もある程度グループホームであるとは把握している方もおります。ただ、深夜帯はあまり音を出しすぎないように注意喚起はしていますが中々定着しないです。

M：そうですね...通話やゲームの音が聞こえることがあります。私も気をつけないと。

鈴木：ある程度自由がきくのが特色ではありますが、それには自制も重要だと理解いただくのが大事ですね。夜間の音については私が夜勤時も気になっていることなので、可能な限りストレスがない程度に制限できるようにしたいです。

N：そうですねよろしくお願いします。

H：何かあったら保護者の方にも連絡いただければ話をするのでよろしくお願いします。

鈴木：ありがとうございます。引き続きよろしくお願いします。